

## 日本の医学部・医科大学における LGBT 未教育の割合 臨床前教育 30.5%、臨床教育で 47.2% ～LGBT に関する医学教育の現状と国際比較～

東京慈恵会医科大学 総合医科学研究センター 臨床疫学研究部の研究生 吉田絵理子、松島雅人教授、同教育センターの岡崎史子准教授の研究グループは、日本の全医学部・医科大学を対象として LGBT に関する医学教育についての実態調査を実施しました。日本における LGBT に関する医学教育の詳細を、米国・カナダの先行研究<sup>1)</sup>(2009～2010年に実施)と直接比較することは日本で初の試みであり、その結果、日本では LGBT に関する教育が圧倒的に不足していることが明らかとなりました。

今回の調査では日本の医学部・医科大学の**臨床前教育**で LGBT に関して教えていた学校は 52.5%、**全く教えていないのは 30.5%**、教えている時間が不明と回答したのは 16.9%でした。また教育に費やした時間の中央値は 1 時間、平均値は 1.6 時間でした。

さらに、**臨床教育**で LGBT に関して教えていた学校は 15.1%、**全く教えていないのは 47.2%**、教えている時間が不明と回答した学校は 37.7%で、教育に費やした時間の中央値は 0 時間、平均値は 0.3 時間でした。

一方、本調査の 9 年前に実施された米国・カナダにおける先行研究においては、LGBT について**教えていなかった学校は、臨床前教育で 6.8%、臨床教育では 33.3%**でした<sup>1)</sup>。本研究の成果は、LGBT に関する医学教育の課題を明らかにし、今後改善を促進する上での基礎資料となるものです。

本研究の成果は、2022年5月19日午前8時00分（日本時間）に BMJ Open 誌(オンライン)に掲載されました。

Eriko Yoshida, Masato Matsushima, Fumiko Okazaki. Cross-sectional survey of education on LGBT content in medical schools in Japan. BMJ Open 2022;12:e057573  
<http://dx.doi.org/10.1136/bmjopen-2021-057573>

\* 本研究は、東京慈恵会医科大学大学院研究助成をうけたものです。

### 【研究成果のポイント】

- ・日本全国のすべての医学部の医学部長あるいは医科大学の学長、卒前教育責任者を対象とした調査を実施し、日本の医学部・医科大学における LGBT の教育に関する量的・質的実態の詳細を明らかにした。
- ・日本の医学部・医科大学における LGBT の教育の実態を米国・カナダの研究データと比較し、量的にも質的にも教育が不足していることが分かった。

### 研究メンバー：

- ・東京慈恵会医科大学 総合医科学研究センター 臨床疫学研究部 研究生 吉田絵理子
- ・東京慈恵会医科大学 総合医科学研究センター 臨床疫学研究部 教授 松島雅人
- ・東京慈恵会医科大学 教育センター 准教授 岡崎史子

## 研究の詳細

### 1. 背景

LGBTとはLesbian レズビアン、Gay ゲイ、Bisexual バイセクシュアル、Transgender トランスジェンダーの頭文字からなる言葉で、その他のセクシュアリティも含むセクシュアル・マイノリティの人々の総称として用いられています。

LGBTの人々はそうでない人々と比べ、精神的・身体的な様々な健康上のリスクにさらされていることが国内外で報告されています。さらにトランスジェンダーの人々を対象とした日本での調査では、医療機関の受診時に嫌な経験をしたことがあるか、体調不良時に医療機関の受診をためらったことがあるかとの問いに対し、それぞれ40%以上の人があると回答しています<sup>2)</sup>。医療者および医療系学生にLGBTについての教育を行うと、知識や態度が向上するという報告<sup>3)</sup>もあり、医療現場で適切な対応を行うには適切な教育が不可欠だと考えられます。

日本の医学教育においては、文部科学省の発行する医学教育モデル・コア・カリキュラムが平成28年度に改定され、初めて「ジェンダーの形成並びに性的指向及び性自認への配慮方法を説明できる」という学習目標が示されました<sup>4)</sup>。2019年に日本の医学部を対象としたLGBTの教育に関する調査報告がされていますが<sup>5)</sup>、教育の詳細に関しては調査されておらず、どの程度LGBTの健康問題を網羅した教育が行われているのかは明らかになっていませんでした。また直接的な国際比較もなされていません。

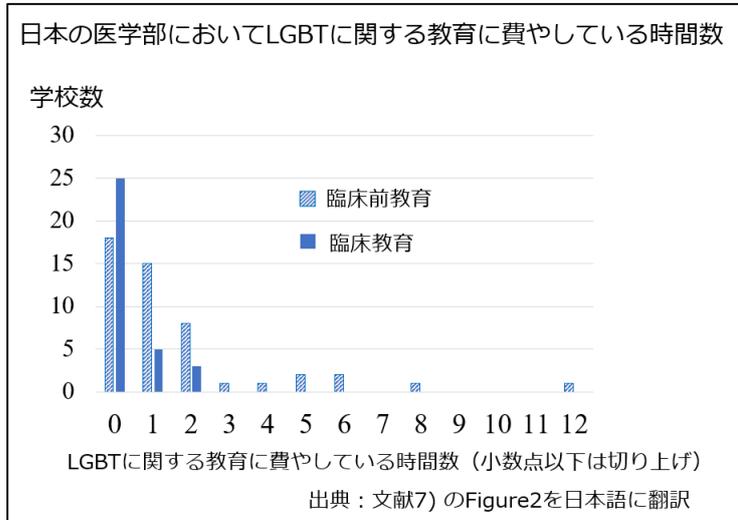
今回、私たちは日本全国のすべての医学部の医学部長あるいは医科大学の学長、卒前教育責任者を対象として、LGBTに関する医学生への教育について質問紙による調査を行い、教育に費やしている時間や教育内容の現状を明らかにし、すでに報告がなされている米国・カナダ(2009~2010年に調査を実施)<sup>1)</sup>およびオーストラリア・ニュージーランド(2015~2016年に調査を実施)<sup>6)</sup>で行われた先行研究と比較し、日本の医学部でのLGBT教育における課題を明らかにしました。

### 2. 手法

日本の82校の医学部の医学部長または医科大学の学長あてに質問紙を郵送し、2018年7月から2019年1月に回答を集めました。回答しない場合には白紙の封筒を送るよう依頼し、回答が得られなかった場合には、さらに2回質問紙を郵送し、1回電話で回答を依頼しました。学校名の入った封筒と、回答用紙とは分けて扱い、回答は匿名化しました。

質問紙は、米国・カナダで実施されたLGBTの医学教育に関する先行研究<sup>1)</sup>で用いられた質問紙の13項目を英語から日本語に翻訳し、さらに5つの新たな質問を加えた18項目から構成されています。(主要質問項目:学校の属性、LGBTの教育に費やしている時間数、LGBTの健康について教えるファカルティ・ディベロップメントの提供、性行為の病歴聴取の際に同性との関係についても情報を得るよう教えているか、LGBTの内容を全体的にどの程度カバーできていると評価しているか、教育の効果の評価法、LGBTの教育内容を増やすための戦略、医学生・教員の中にLGBTであることをカミングアウトしている人がいるか、LGBTの教育に関心のある教員がいるか)

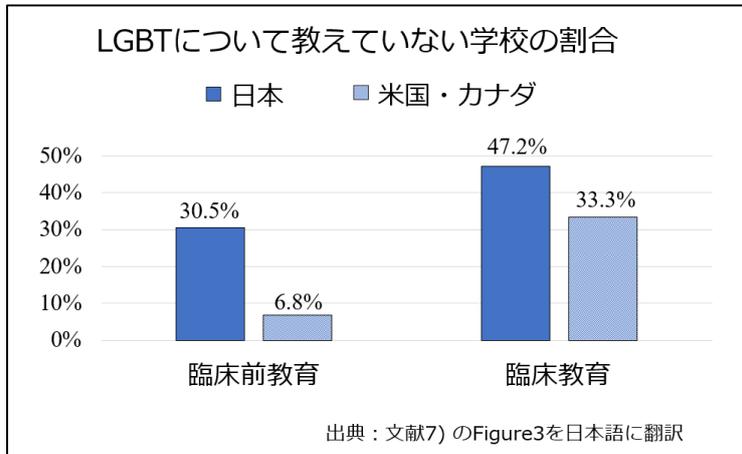
### 3. 成果



82校のうち60校(73.2%)から回答を得られ、18問中11問に回答しなかった1校を除く、59校(72.0%)のデータを解析対象としました。

臨床前教育でLGBTに関して教えていた学校は59校中31校(52.5%)、全く教えていないのは18校(30.5%)、教えている時間が不明と回答したのは10校(16.9%)でした。また教育に費やした時間の中央値は1時間(25パーセントイル\*75パーセントイル:0-2時間)、平均値は1.6時間(±標準偏差(以下SD):2.4時間)でした。

臨床教育でLGBTに関して教えていた学校は53校中8校(15.1%)、全く教えていないのは25校(47.2%)、教えている時間が不明と回答した学校は20校(37.7%)で、教育に費やした時間の中央値は0時間(25パーセントイル\*75パーセントイル:0-0時間)、平均値は0.3時間(±SD:0.6)でした。



一方、米国・カナダにおける先行研究においては、LGBTについて教えていなかった学校は、臨床前教育で132校中9校(6.8%)、臨床教育では44校(33.3%)のみでした<sup>1)</sup>。また、教育に費やした時間の中央値は臨床前教育、臨床教育でそれぞれ4時間(25パーセントイル\*75パーセントイル:2-6時間)、2時間(25パーセントイル\*75パーセントイル:0-3時間)でした<sup>1)</sup>。

このように臨床前教育、臨床教育ともに、日本は米国・カナダ<sup>1)</sup>と比較して、LGBTについて教えていない学校の割合が多く、また教育の時間数も短いことが分かりました。

さらに今回の調査では、LGBTの健康について教えるファカルティ・ディベロップメントを実施している学校は59校中5校(8.5%)に過ぎませんでした。また性行為の病歴聴取の際に、学生に同性との関係についても情報を得るように教えている学校は13校(22.0%)でした。しかし、LGBTに関する教育についてどの程度カバーできているかという評価は、57校中45校(79.0%)が、「乏しい」または「とても乏しい」と返答しており、多くの大学が教育の不足を認識している実態が明らかとなりました。

#### 4. 今後の応用、展開

本研究の成果は、LGBT に関する日本の医学教育に関して、既に教育が進んでいる国と比べてどういった点が不足しているかを明らかにしており、今後の医学教育を発展させていく上での基礎資料となるものです。

この基礎資料をもとに、各大学のカリキュラムの中に LGBT に関する教育が量、質ともに充実されることを期待しています。しかし、個々の大学でそれを達成するのは容易ではないとも考えており、LGBT の人々のケアを実践的に学ぶ学習コースを組織横断的に構築し提供することを視野に入れています。

#### 5. 脚注、用語説明

\*パーセンタイル：パーセンタイルとは、データを小さい方から数えたときに何%にあたるかを示す数値です。25 パーセンタイルとは、小さい方から数えて 25%目にあたる値であり、中央値とは、50 パーセンタイルのことです。

1) Obedin-Maliver J, Goldsmith ES, Stewart L, et al. Lesbian, gay, bisexual, and transgender-related content in undergraduate medical education. *JAMA* 2011;306(9):971-7.

2) 金子典代, 浅沼智也, 平尾春華, 近藤歩. *GID/GD/トランスジェンダーの当事者の医療アクセスの現状 2020* [Available from: <https://teamrans.jp/pdf/tg-gid-tg-research-2020.pdf>]

3) Sekoni AO, Gale NK, Manga-Atangana B, et al. The effects of educational curricula and training on LGBT-specific health issues for healthcare students and professionals: a mixed-method systematic review. *J Int AIDS Soc* 2017;20(1):21624.

4) 文部科学省、医学教育モデル・コア・カリキュラム（平成 28 年度改訂版）

[Available from:

[https://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2017/06/28/1383961\\_01.pdf](https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/06/28/1383961_01.pdf)]

5) Yamazaki Y, Aoki A, Otaki J. Prevalence and curriculum of sexual and gender minority education in Japanese medical school and future direction. *Med Educ Online* 2020;25(1):1710895.

6) Sanchez AA, Southgate E, Rogers G, et al. Inclusion of Lesbian, Gay, Bisexual, Transgender, Queer, and Intersex Health in Australian and New Zealand Medical Education. *LGBT Health* 2017;4(4):295-303.

7) Yoshida E, Matsushima M, Okazaki F. Cross-sectional survey of education on LGBT content in medical schools in Japan. *BMJ Open* 2022;12:e057573

#### 6. 論文情報

掲載誌：BMJ Open 誌オンライン版

論文タイトル：Cross-sectional survey of education on LGBT content in medical schools in Japan. *BMJ Open* 2022;12:e057573

著者：Yoshida E, Matsushima M, Okazaki F.

DOI：10.1136/bmjopen-2021-057573

\* 本研究は、東京慈恵会医科大学大学院研究助成をうけたものです。



【本研究内容についてのお問い合わせ先】

東京慈恵会医科大学 総合医科学研究センター 臨床疫学研究部 吉田絵理子  
メール [yoshidayoyo@jikei.ac.jp](mailto:yoshidayoyo@jikei.ac.jp)

【報道機関からのお問い合わせ窓口】

学校法人慈恵大学 経営企画部 広報課 電話 03-5400-1280 メール [koho@jikei.ac.jp](mailto:koho@jikei.ac.jp)

以上